

地域再生とまちづくり

—各都市が目指すものは

動き出した再開発

那覇市中心市街地の南に位置する農連市場は、戦後の混乱期から続く生鮮野菜を中心に肉、魚、日常雑貨までも提供するマチグワー（市場）であり、1953（昭和28）年

に開設されて以降、沖縄県民の台所としての役割を担い続けてきた。また、建物は木造、屋根はトタン、昭和初期の雰囲気そのまま残っているた

沖縄県那覇市・農連市場地区防災街区整備事業



<第1回>

め、沖縄を訪れる観光客からも愛される穴場的スポットともなっていた。

しかし、建物の老朽化が著しく、地域は衰退し、周辺街路も狭隘（きょうあい）なため防災の面からも早期の地区再生が望まれていたが、なかなか古き良きものを捨てられないということもあり、84

重要なのは「コンセプト」

（昭和59）年の整備基盤構想であったりするとその事業は

再開発や整備事業を行うに当たって重要なのはコンセプトである。コンセプトが曖昧

から30年あまりの時間が経過していた。そのコンセプトは「人ともものが行き

んな農連市場もここにきて、関係者間での合意形成がようやく進み、現在は建物の解体工事が始まり、新しい街並みへと変化しようとしている。

交い、マチグワー文化を継承するにぎわい豊かな街」で、衣食住遊が融合し、賑わいと交流が生まれる空間への再生を目指している。2019（平成31）年春の完成を予定しており、那覇市の新たな交流拠点となることが期待されている。

沖縄繁栄の出発地

農連市場を含む周辺地域は、戦後米軍に占拠された那覇市街においてもっとも早く開放が進んだ地域であり、戦後における沖縄繁栄の出発地である。ただ単に建物を新しくしただけでは賑わいと交流は生まれぬ。先人が培ってきた歴史、伝統、文化をしっかりと承継し、そこで働く人々、権利者、地域住民、行政が一体となって、古いもの、新しいものをうまくチャンプルー（融合）させて、地域に息づく持続可能なまちづくりを行っていくことが必要である。それが地域再生の第一歩となる。

（日本不動産研究所那覇支所、不動産鑑定士・上原弘訓）

賑わいと交流の生まれるマチグワー（市場）空間へ

農連市場地区防災街区整備事業の概要

施行者	那覇市農連市場地区防災街区整備事業組合
施行区域面積	約3.1㊦
建築施設概要	店舗（1階に生鮮食料品などの店舗、2階に飲食や仲卸など）、分譲住宅、市営住宅（多子世帯向け住戸、拠点保育所・子育て支援施設）、権利者住宅、学校、駐車場
公共施設概要	幹線道路（那覇市道）の整備
総事業費	約177億円

今回から新シリーズ「地域再生とまちづくり」を掲載します。大きな政策課題の一つが地方創生。各地域で進む取り組み、プロジェクトなどを紹介します。（編集部）

那覇市農連市場地区防災街区整備事業の完成予想図（提供；整備事業組合）